

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 阿波市みどりの食料システム推進協議会
都道府県 徳島県
対象地域 阿波市
対象品目 夏秋なす



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

阿波市では、令和5年3月に策定した、阿波市農業振興計画に基づき、環境保全型農業を推進し、低コストで省力的な農業経営の実現とともに消費者の理解と認知度向上に取り組み、農業者と消費者が一体となった持続的な産地形成を進めています。これまで、化学農薬に頼らない技術として土着天敵を活用した防除技術の導入を試みましたが、I P M技術導入には専門的な知識や経験値が必要であり、本技術に対する理解不足などから、産地として部分的な普及に留まり、本格的な普及に至っていません。このような中、薬剤抵抗性を持つ難防除病害虫の発生による収量及び品質の低下、農業生産費の高騰による経営の圧迫、高温下での作業による身体的負担の増加、高齢化といった現状の中で省力的かつ効果的な新技術の活用が喫緊の課題です。

そこで、「ソルゴーや反射マルチ等による害虫の侵入防止」と「アザミウマ類やコナジラミ類に防除効果のある土着天敵の活用」、「農薬散布作業等を軽減させるための畝間を自走する防除ロボットの導入」、「灌水チューブを活用した局所施肥と有機質肥料の利用や土壌センサの活用による適正施肥」と「化学肥料使用量の低減」にかかる現地実証を行いました。さらに、地域消費者に対し、「環境保全型農業に関する意識の醸成」に努めるとともに、「都市圏消費者への環境に優しい栽培のなす産地のPR」を行い、持続可能な産地づくりを進めます。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■ ▲	▲	○								●	●	●：たい肥の投入、■：基肥の施用、▲：定植、○：収穫
技術名	動力噴霧器を用いた農薬散布による病害虫防除												
	畝間水への配合肥料の追肥												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■ ▲	▲	○								●	●	●：たい肥の投入、■：基肥の施用、▲：定植、○：収穫
技術名	ソルゴーや他の土着天敵温存植物の植栽管理・反射マルチの設置												
	チューブ灌水による有機肥料の施用・防除ロボットによる防除												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	12	15	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.5	3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.8	3	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.5	3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料の施用	▶ 灌水チューブによる有機質肥料の施用	化学肥料の使用量減少
省力	－	▶ 防除ロボットの導入	作業時間の減少
環境省力	化学農薬による防除	▶ 反射マルチの設置 天敵温存植物の植栽管理	化学農薬の使用（成分）回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量（N成分kg/10a）	51.6	▶ 41.28	有機質液肥を活用
環境省力	化学農薬の使用(成分)回数（回）	58	▶ 46	成分数でカウント
省力	作業時間（％）/10a	100	▶ 80	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

消費者と生産者の両者に対し、有機農業をはじめとした環境保全型農業を周知するために、チラシを作成、配布する。
講習会等で反射マルチ、天敵温存植物、有機質肥料のチューブ灌水や防除ロボットの効果について周知する。

関係者の役割

関係者名	農業協同組合	市役所	生産者	徳島県
役割	農業者との調整、技術指導	事業実施手続き	実証ほの管理、技術の検証	事業のコーディネート、技術指導

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R12）（ha）	備考
防除ロボット	防除	0.1	

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

「あおまる47物産展」、「阿波の狸まつり」や「阿波市マルシェ」の中で、パネル展示やチラシを配布するなどして地域や都市圏の消費者に向けて環境に優しい栽培に基づく産地をPRを実施し理解とともに意識の醸成を図りました。

その他